

狀況より筆を起し、ゾーフの館務整理の有様や、露國使節の渡來に際してゾーフが日露交渉事件には關係せずと決心した事や、英人に出島蘭館を讓渡さんとする計畫のあつたときゾーフは之が引渡を拒絶した事等、當時出島を中心とした英蘭兩國間の關係交渉を闡明し、海外貿易史の裏面を論究し、加ふるにゾーフの人物を縦横に論評し、少壯氣鋭の奇才を認めたものであつて、ゾーフ肖像、ゾーフ贊の富嶽圖、出島蘭館圖以下九葉の何れも稀覯の圖版を挿入して居る。此邊の事情に關しては、我國の史料甚だ乏しく、事件によりては全く史料を闕如して居るものであるが、本書は著者が親しく海牙府の國立古文書館、英國印度省書庫を探り、或はゾーフの遺族を訪ねて世人未知の材料を得たるを基礎として攷究されたものであつて、日蘭關係史上必讀のものであると信じる。(東京廣文館發行、定價、二、五〇)

● 京都史蹟勝地調査報告

第三冊

大正九年四月以降大正十年三月に至る間に於て、魚澄梅原兩委員の實地調査にかゝる京都市、愛宕郡、葛野郡

乙訓郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡、南桑田郡、北桑田郡、船井郡、何鹿郡、天田郡、熊野郡の一市十二郡に亙る史蹟勝地二十七箇所を調査報告を載せ、四十一葉の圖版と多數の挿繪を併せ收めたるものなり。其中、魚澄委員の手になりし、八坂法觀寺、等持寺址、船岡山城址、淀城址、篠村八幡宮、細野村春日神社、梅原委員の手になりし大住村車塚古墳、修學院村平安宮所用瓦葺址、太秦村天塚及び清水山の古墳、西中筋村石劍發見の遺跡、大枝村妙見山古墳の調査等は、委員の最も力を盡せる項目たるべし。就中等持寺の遺址を明示したるが如き、大枝村妙見山古墳の構造年代も應神仁徳を降れる時期と推定したるが如きは最も注目に値すべきものたるべきか。(京都府發行、非賣品)(以上中村)

● 滿鮮地理及歴史研究報告 第九

南滿洲鐵道會社の提供に基き滿鮮の地理歴史を研究したる東京帝國大學文學部の報告の第九にして十一年五月の刊行に係る。『三國史記高句麗紀の批判』(津田左右吉)は右高句麗紀の記事中、支那史籍より材料を取らざる部

分に如何ばかりの確實なる史料を包含せるか、謂ふ點に着眼し、便宜上建國説話、國王の世系、支那との交渉に關する記載、他の異民族との交渉に關する記載、國內の事件に關する記載の五項に區分して考究を積み、該紀の記載に於て國王の世系なきは高句麗より傳はりし史料なるべく、建國説話、地名人名等にも同様に認め得らる、も勿論新羅人の潤色の迹も見ゆ、其の他に至りては大抵新羅人や高麗人の腦裏より造作したるものならむか、結論す。終に眞番郡撤廢、玄英郡移轉の事情及び高句麗建國の年代に就ての考を附載せり。

『契丹人の衣食住』(松井等)は南北朝以來隋唐を経て、五代に至る迄斷續的に支那文物の輸入せられたる契丹人の衣食住に就きて、其の支那輸入に係らざる契丹人固有の風俗を闡明せむことを目的とし、契丹人の射獵生活、衣服、飲食、住居に就きて研究せり。

『完顔氏の曷懶旬經略』(尹瓘の九城の役)、『蒲盧毛朶部に就いて』(池内宏)は女眞の酋長完顔盈歌即ち金の穆宗が四隣平定に當り南下して其の勢力範圍に入れたる曷懶旬が廣義の咸興平野なることより研究し、彼と高麗との

關係、曷懶旬經略、豆滿江地方討平、完顔烏雅束の曷懶旬征服及び高麗との衝突を調査し、尹瓘の九城の役は出師の決定、九城築設、完顔氏の兵との交戦、講和を考究す。

『元朝牌符考』(箭内互)は元朝以前の牌符より辭き起して漢代の銅虎符、戰國魏の虎符、竹使符、漢代の木傳信繡符より三國兩晉南北朝唐の制に及び、宋符金符の詳細を叙し、施きて元朝の制に及び、其の効用、特典、世襲濫用、出納、牌名の由來を究め、併せて驛券の委細に論及せり。

以上四篇皆鮮滿研究上の好文字にして別に完顔氏の曷懶旬經略と尹瓘の九城の役地理圖あり。(東京帝國大學文學部發行、價不詳)(那波)

●通論考 古學 文學博士 濱田耕作著

文學博士濱田耕作氏の近業にして、考古學の本質と其の研究方法を通論せるものなり。本書は著者が嘗て「考古學の榮」と題して本誌に連載せる稿に一大補訂を施したる本文にこれと殆んど等しき苦心を以て蒐成せる六十五枚の豊富なる圖版を如へて成れり。其の内容を瞥見す